

悔しいけど

私は今、ピーター先生と共に、あるマッサージの先生にマッサージをしてもらっています。この方は以前、ある新興宗教に入っておられました。そこで40年近く信仰しておられて、まさかそこを出ることになるなど想像もしていなかったと言われます。

私は2年くらい前、腰を痛めた時この先生に出会いました。マッサージ中、その宗教の話をよく聞かされましたが、その話の中にほんものを求める人の真摯さを感じていました。その頃、ルナホールのいやし礼拝には一度来られましたが、「頭が痛くなったからもう行かん(行かない)」ということでした。

出会ってしばらくした頃、この先生は腰が痛い、へっぴり腰のようになって腰をかばった動きをしておられる時が二度あって、私は二度とも祈らせてもらいました。手を置いて祈るなり(もちろんキリストの名によって祈りました)、一瞬にいやされてしまい、二度とも、目に見えるほどにはっきりと足腰が動いて、よくなってしまいました。

「あっ、なまった。ありがたい」と叫んでおられました。この人は神なるものの力を知っておられる人だと、私は正直驚きながら眺めていました。私はほとんどキリストの話はしませんでした、これは主が備えられた出会いだと思い、祈っていました。

1年半くらい前、一人の青年がこの先生に言ったそうです。「先生、先生はここよりアーメンの方が合っていますよ」この青年は先生にその宗教に連れて行ってもらったのに、その後キリストを信じる人になっていたそうです。先生は、「こいつはへんなことを言うなあとと思ったけれど、自分にはキリストは関係ない」と思っておられたそうです。

ところがある時、この先生が事務局に一人の男性を連れて来られました。先生はもうこの頃、困っている人を以前の宗教団体には連れて行こうとされず、キリストのところに連れて来られるようになっていました。

この時、連れて来られた人は主を信じ、洗礼を受けました。その時、私が言ったそうです。「先生もついでに洗礼を受けませんか」それまで洗礼を拒んで来られた先生でした。

「あの『ついでに』という言葉にひっかかってしまいましたわ」と先生。

私は、「ついでに」などという失礼な言い方に先生がどのようにひっかかって下さったのか分からないのですが、うれしい「ついで」でした。主には「ついで」など決してないのですから。

アーメンが合っている、と言われてから6ヶ月後の洗礼となりました。

洗礼を受けてから、この先生は人が変わったと言われるようになったそうです。「ほんとに変わった。顔から身体つき、性格まで変わったと言われるんですわ」と言われます。「何よりも悪い連中が来なくなった」のだそうです。

人との関わりが変わったのでしょう。そして、怒りっぽかったのが穏やかになられたそうです。

去年の夏頃だったでしょうか。ヘビスマーカーの先生を見て、私は「たばこをやめてはどうですか」と話しました。高齢ですし、身体によくないからです。

「いくら美津子先生が言われても、たばこだけはやめられません」

これが最初の返事でした。しかし一週間後、「せっかく言ってもらったから、10月からやめることに決めました。神さんが言うてくれとると信じたからです」と言われました。そしてほんとに10月からやめてしまわれました。

主も助けて下さったと思いますが、このオトシで長年の喫煙をやめるのは、どんなに大変だったかと思います。先生は、いまだに昔の用語(主の恵みは「ご加護」、礼拝は「お祭り」など)で話されますが、新しい信仰に生きておられるのが分かりました。

さて、ここから、今日書きたいと思ったことです。

一昨日の月曜日、私はマッサージをしてもらいました。この前日はルナホールのいやし礼拝でした。

先生は私の背中をさわって言われました。「あなたはやはり日曜のお祭りで、たくさんのものをもらいましたな。背中がコチコチに張っていますよ。あんなだけの人がいるんやから無理ないわな」先生は、礼拝で私が多くの人を祈ると、その人達の病いや痛みを私の身体に受けてしまうということをおられるのです。

たしかに初期の頃は「受ける」ということが起こって、私は身体中あちこちが痛みました。しかしこれは、主がすでに十字架に取って下さったものであると分かってから、受けても受け続けるということはありませんでした。いや、なくなったはずです。でも時として、気がつかないで負うこともあるのでしょうか。あるいはただの疲れかもしれません。この月曜日はたしかに疲れていました。身体が重かったのです。

「ふつうの人なら、こんなにもらったら倒れてますよ。今日の背中の張りもふつうじゃありませんよ」先生の言葉に私は思わず言いました。

「でもいやしは私がしているんじゃないんですよ。キリストがすでに十字架にこの痛みを負って死んで下さっているんですから。これは信じるということではなく、事実なんです」

キリストの十字架の死は、信じようとするのではなく、事実です。この一言を言った時のことです。

「あ、あなたがそのことを言われたとたん、あなたの背中の張りがすっかり取れてしまいました。悔しいけど取れてしもうた」

「悔しいけど」というのは、自分のマッサージで取れたのではないので悔しい、ということのようでした。私がほんの一言を口にしたことによって、背中のひどい張りが取れてしまったのだそうです。イエス・キリストの十字架は事実である。十字架を告知することは、いやしをもたらすのですね。

ほんのささやかなできごとでしたが、主が今、十字架の告知を願っておられるここに今の世への答がある、と語っておられるのだと思いました。

主はさんびを与えて下さっていますが、さんびこそ、主の十字架を全地に告知するものだと信じるのです。主の十字架の願いが、この地に成りますように。